ロバート・トレヴィーノ（指揮）

Robert Treviño, conductor

メキシコ系アメリカ人のロバート・トレヴィーノは新世代の最もエキサイティングな指揮者の一人。現在、スペインのバスク国立管弦楽団の音楽監督、イタリアのRAI国立交響楽団の首席客演指揮者を務めている。

2024/25年シーズンのハイライトは、ミネソタ管、読響へのデビューや、フランス放送フィル、サンタ・チェチーリア管、チューリヒ・トーンハレ管、ロイヤル・フィル、バーミンガム市響、大阪フィルへの再登場。これまでに、北米の多岐にわたるオーケストラのほか、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ゲヴァントハウス管、バンベルク響、ウィーン響、パリ管、トゥールーズ・キャピトル国立管、N響などに客演している。

オンディーヌ・レーベルからリリースしたベートーヴェン交響曲全集、2枚のラヴェル作品集、ラウタヴァーラのヴァイオリンと管弦楽のための作品集、レスピーギのローマ三部作、知られざるアメリカ人作曲家の作品を集めた『アメリカの眺望』はいずれも高い評価を得ている。

2013 年にボリショイ劇場のヴェルディ《ドン・カルロ》の代役指揮で大きな注目を集め、「モスクワにおけるヴァン・クライバーン以来のアメリカ人の成功」と報じられた。新作委嘱や初演にも積極的で、J.アダムス、P.グラス、S.グバイドゥーリナ、J.ヒグドン、A.プレヴィンら、同時代を代表する多くの作曲家の作品を指揮している。

（562文字）